

企業の自動化とインダストリー4.0の導入

令和6年2月23日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

全て企業における可能なIT化と自動化は、大幅な人員削減を可能とし、その効率的なシステム構築における企業経営は、利益性という企業の健全性を実現できるものである。

これらは企業の作業の自動化を全面的に実現するものであり、IT化や自動生産システムは、新しい現実なのである。

これらは遥かに想像に勝る新しい生産性と効率性における企業経営を可能とし、これらが高い利益性への天下を企業において可能とするのである。

これらシステム化は、生産性の連続性を行い、流通や小売におけるデータ管理とビッグデータにおけるITシステムにおける自動化された企業環境は、新しい時代における消費者や小売要求に対して、自らのアドバンテージを実現できるのである。

これは勝者が過去に行った仲買作業などは、ITシステムにおいて全て自動化でき、これらは利益の捻出を永続的に実現できるのである。

これらが現状のIT革命の真実なのである。

これら先端企業システムは、世界のどの地域に対しても、その有効性を与えるものであり、人件費における判断でなく、優れた人材における企業構築を有するものである。

これらはトランプ元大統領が行った、先端生産環境のアメリカへの誘致の現実であり、これらは未来におけるより優れた自己プレゼンスを構築することは、予測できるものである。

これらは貿易環境がこれら現実において変化を有するものであり、先端産業における資本力と技術力は、資本の独占を有するのである。

これらは変化と新しい経済構造がグローバリゼーションとともに存在することを意味する。貿易黒字と赤字は、その性質を完全に相違させているのである。